

# 派遣職員が

# 広野町の現状を理解

広野町は、平成26年5月15日（木）に支援職員等研修を行いました。全国からの派遣職員など9人や駐在職員7人、そして東日本大震災後に新規採用された職員7人が参加しました。震災以降の町の取り組みを知り、除染廃棄物仮置場など被災地の現場を実際に見るのが目的です。5月号から広報ひろのの編集を担当している私も、派遣職員の一員として参加しつつ広報担当者として取材しましたので、その様子をお伝えします。（総務課 岩田）



午後1時15分  
町長あいさつ

研修は役場の全員協議会室でスタート。遠藤町長が冒頭にあいさつをし、全国からの復興支援にお礼の言葉を述べました。



午後1時30分  
講義「震災以降の取り組みについて」

松本参事兼復興企画課長が、広野町の避難からの復興の現状と今後の取り組みについて説明をしました。配布資料には、震災で大きく打撃を受けた町の生々しい写真も載っていて、改めて今回の震災が千年に一度の災害であることを胸に刻みました。



午後2時  
現地見学に出発

町のマイクロバスで、現地を見て回ります。このバスも復興支援の一環として寄付を受けたものです。このバスをはじめ、公用車にも全国からの支援が寄せられているのです。



午後2時15分  
浅見川河口

町の中で津波被害の爪痕を未だ残す場所です。しかし、防潮用のテトラポットが高く積み、私が広野町に赴任した一昨年の12月とはずいぶん景色が違います。このあたりからは、今年9月に完成予定の災害公営住宅も見えます。



午後5時  
広野町役場帰庁

見学を終えて広野町役場に帰ってきました。災害・除染廃棄物仮置場や旧警戒区域に初めて足を踏み入れた職員もいて、被災地で働いているということを再認識する機会になりました。



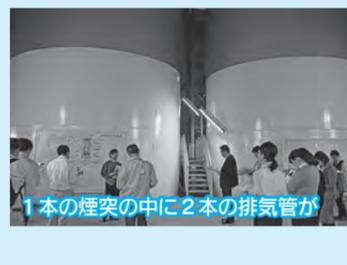
午後4時  
旧警戒区域視察

旧警戒区域まで足を伸ばし、富岡駅周辺を視察しました。除染作業は始まっていましたが、復旧工事はまだのようで、あたかも、震災直後の姿をそのまま残しているかのようでした。巡回中の神奈川県警からの派遣警察官とあいさつしました。互いに激励し合うことができ、有益な交流ができました。



午後3時  
広野火力発電所見学

広野火力発電所を見学しました。6号機までであるのに煙突が3本なのは、1本の煙突に2本の排気管が入っているからです。東京電力株式会社の人から、震災後3か月で復旧し、夏場の電力需要をまかなったと説明を受けました。そして監視室から災害・除染廃棄物仮置場などを確認しました。



午後2時30分  
災害・除染廃棄物仮置場（下北迫）見学

広野町は、災害廃棄物と除染廃棄物の仮置場を1か所に集約しています。可燃性の廃棄物は、今年度中に完成する仮設の減容化処理施設で処理をする計画です。不燃性の除染廃棄物は、仮置場への搬入が完了したのから保護シートで被覆し管理しています。

私たちは広野町の復興のために全国から集まりました

広野町と派遣元団体との併任

総務課 岩田 広和 (岐阜県岐阜市)

保健センター 吉村 彩里 (福島県)

復興企画課 佐々木 栄三 (東京都)

復興企画課 尾田 栄章 (福島県)

復興企画課 吉崎 公紀 (宮崎県宮崎市)

復興企画課 後藤 純哉 (愛知県清須市)

復興企画課 松本 直樹 (経済産業省)

復興企画課 今野 浩明 (財務省東北財務局)

復興企画課 森谷 隆 (福島県)

復興企画課 大田 雄士 (復興庁)

建設課 山野 誠一 (復興庁)

建設課 谷口 真依子 (復興庁)

建設課 松本 誠 (復興庁)

学校教育課 比良 文香 (経産省北海道経済産業局)

学校教育課 大田 雄士 (復興庁)

環境防災課 比良 文香 (経産省北海道経済産業局)

環境防災課 大田 雄士 (復興庁)

\* ( ) 内は派遣元官公庁  
\* このほかに、農水省近畿農政局から建設課に交代で常時2人派遣されています。